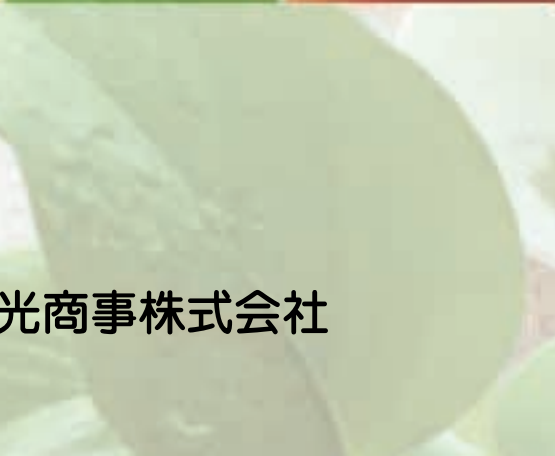
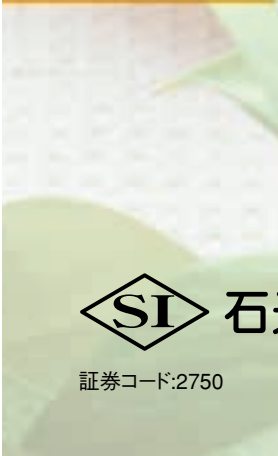
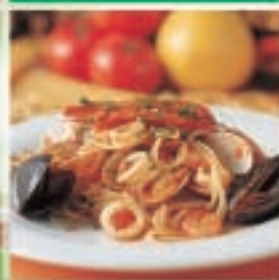



株主のみなさまへ

事業報告書

平成17年4月1日～平成18年3月31日



 石光商事株式会社

証券コード:2750

経営理念

ともに考え、
ともに働き、
ともに栄えよう。

Contents

●営業の概況	3
●TOPICS	6
●商品別概況	7
●連結財務諸表	9
●財務諸表(単体)	11
●会社情報	13

おかげさまで百周年を迎えることができました。
これからも「食」の新しい価値を創造して提案して
まいります。
世界の人々と、ともに努力し、繁栄していく会社を
めざします。



石光会長



森本社長

株主の皆様方には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別の支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第56期(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)の営業の概況と決算についてご報告申し上げます。

今後も顧客満足度を高めるとともに収益力を強化し、企業業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役会長 石光 輝男
代表取締役社長 森本 茂

営業の概況

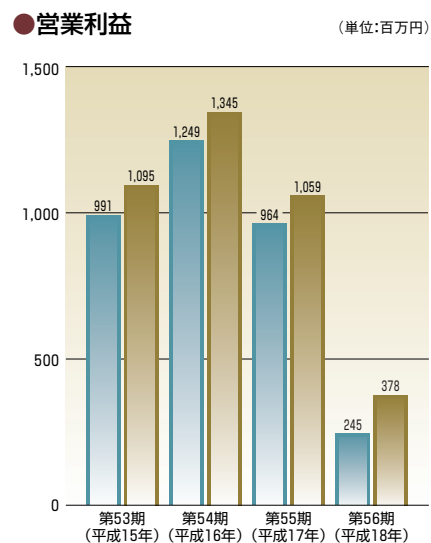
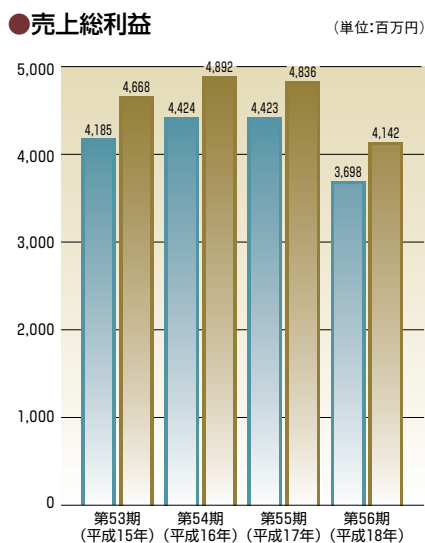
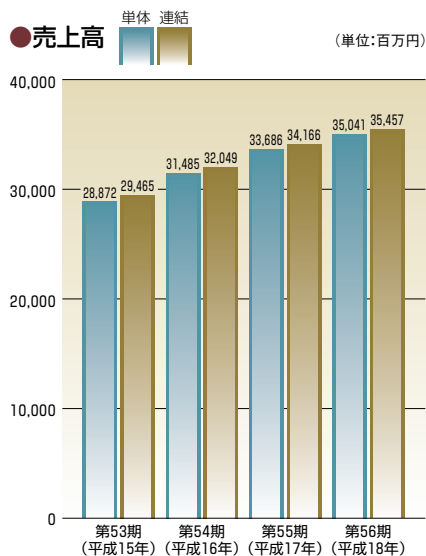
営業の概況

当期におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景として設備投資が増加し、雇用情勢の改善などから個人消費が緩やかに増加するなど景気回復基調で推移いたしました。しかしながら、原油価格の高騰を始めとする素材価格の上昇が続いており、企業収益に与える影響が懸念されております。

当社グループの主力マーケットである飲料・食品業界におきましても、競争激化による低価格化の持続により

売上が伸び悩む中で、食に対する安全・安心がますます求められております。

このような状況のもと、当社は顧客ニーズを迅速・的確に反映した高品質・安全な商品開発と積極的な提案営業活動を行い、新商品を飲料・食品マーケットに提供してまいりました。また、研究開発室の検査機能・品質保証体制の強化をはかるとともに、海外農水産物の生産・加工指導を徹底し、従来にも増して安全・安心な商



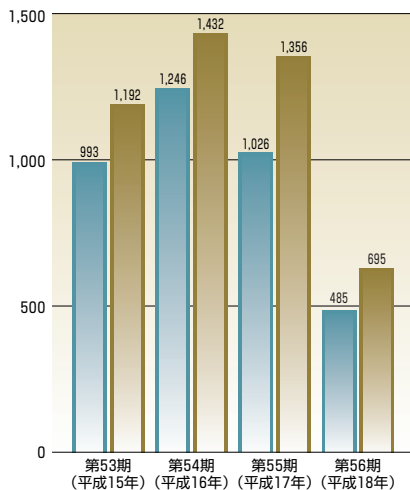
品の開発輸入に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高は354億57百万円(前期比3.8%増)と増加いたしました。コーヒー生豆相場高騰等のコストアップ要因によるコーヒー生豆及びコーヒー製品の利益率低下及び運賃、保管料等のコストアップ要因により、営業利益は3億78百万円(前期比64.3%減)、経常利益は6億95百万円(前期比48.7%減)となりました。長期為替予約であるクーポンスワップについて、主に評価

日の直物為替相場により大きく左右される時価評価損益の変動が当社業績に与える多大な影響を排除するため、残存クーポンスワップ契約を3月に解約しましたことによる解約益9億21百万円を特別利益に計上した結果、当期純利益は9億70百万円(前期比133.0%増)となりました。

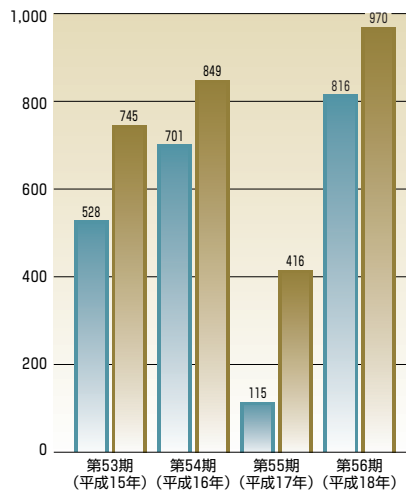
● 経常利益

(単位:百万円)



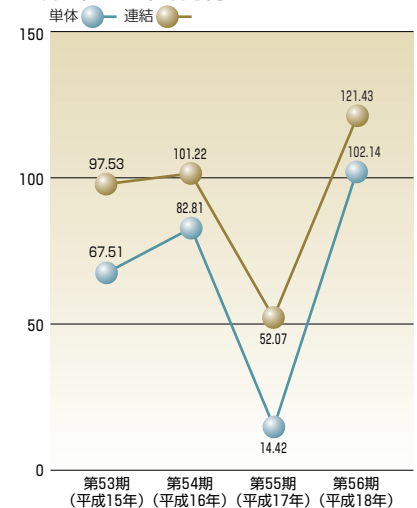
● 当期純利益

(単位:百万円)



● 1株当たり当期純利益

(単位:円)



営業の概況

対処すべき課題

当社グループは競争の軸を「品質」中心に定め、中期経営計画のテーマであります「THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER」の実現を目指します。創業100周年の記念すべき節目の年に、次なる100周年に向かって新たなビジネスモデルの礎となる中期経営計画の実現の為に4つの重要施策と2つの課題に取り組みます。

● 重要施策

1) マーチャンダイジング機能の充実強化

- ① 原料に強いマーチャンダイザー
- ② 顧客・マーケットの視点から発想した製品開発
- ③ 既存取引先とのコラボレーションによる新たな価値提案

2) コーヒーの価値提案

- ① 顧客の求める品質を実現するための調達・加工・販売システムの再構築
- ② コーヒーの価値を伝えるためのチャネル構築
- ③ コーヒーの新しい価値を提案するための研究・開発活動

3) 研究開発室の拡充

- ① 基礎研究
- ② 開発機能の強化
- ③ 産学協同研究の推進

4) 海外事業の拡大

- ① 海外での調達・加工・販売活動の統合
- ② 国内事業の経験を生かした海外での事業展開
- ③ 海外拠点の設置

● 取り組むべき課題

1) 総コストの削減

- ① 新コンピュータシステム導入による業務の効率化
- ② 在庫削減、物流効率化によるコストダウン
- ③ 情報共有化、部門間連携、業務効率化による営業生産性のアップ

2) 人材確保

- ① 研修制度の充実と採用形態の多様化
- ② 新人事システムのブラッシュアップによる働き甲斐の向上

COFFEE

コーヒー“豆”知識

BEANS

日本でも観葉植物として見かけるコーヒーの木ですが、うまく育てれば、開花、結実、収穫を楽しむことができます。

社内で鉢植えで育てているコーヒーの木から多くのチェリーが収穫できました。

収穫されたコーヒーを乾燥・脱殻・焙煎・抽出して飲んでみると、思い入れが強いこともあり、それは格別の味でした。もちろん脱殻後のコーヒーの外皮や果肉も無駄にはいたしません。イエメンで有名なギシルコーヒー風に煮出して飲んでみましたら、ほんのり甘く、これはこれで大満足の味でした。

一度挑戦されてはいかがですか？栽培から抽出まで自分で行うコーヒー……きっと格別なはずですよ。



TOPICS

創業百周年

1906年ロサンゼルスにて創業して以来、百年を迎えました。

これもひとえに長年にわたる皆様のご厚情とご支援によるものと深く感謝申し上げます。

これからも「食」の安全性をさらに追求し、「美味しく食べて健康になる」という人類共通の願いに貢献しながら、次なる百年に向かって一層の努力を重ねてまいります。今後とも倍旧のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

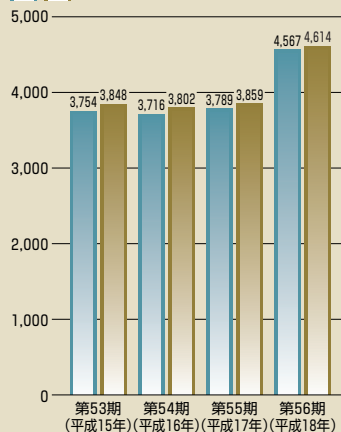


商品別概況

単体 連結

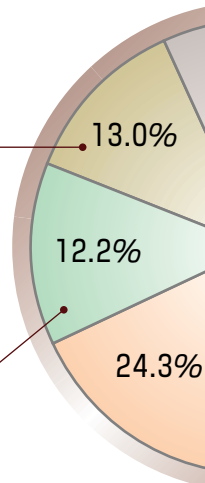


(単位:百万円)

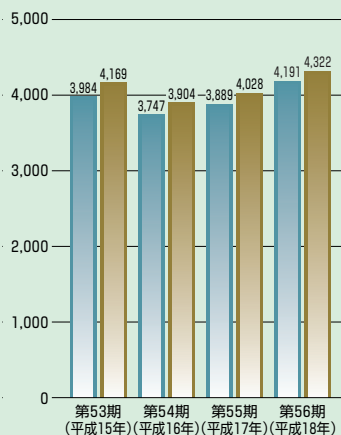


コーヒー生豆

主力商品のコーヒー生豆のニューヨーク市場(コーヒー生豆相場期近銘柄)の価格(終値ベース)は、期初の123.95セント/ポンドから始まり、9月には84.45セントまで下がりましたが、1月には124.30セントまで上がり、期末は107.00セント/ポンドで終了いたしました。このような状況のもと、コーヒー生豆の販売数量は微増でしたが、一昨年11月からの相場高騰の影響により平均販売単価が前期比20.7%も上昇したため、売上高は46億14百万円(前期比19.5%増)となりました。



(単位:百万円)

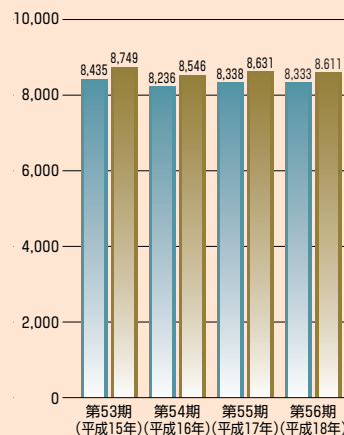


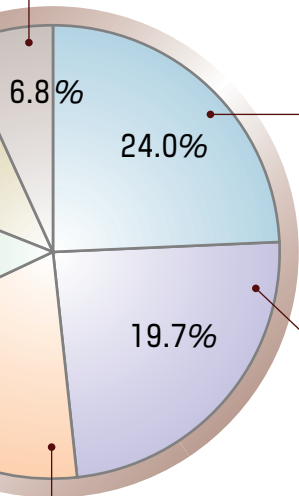
飲料製品及び原料

レギュラーコーヒーの売上高は、メーカーOEMの袋入製品が減少したものの、量販店OEMのコーヒーバッグが大幅に増加したため、前期比22.2%の増加となりました。インスタントコーヒーの売上高は、バルク製品や袋入製品が増加したものの、瓶入の輸入商品が減少したため、前期比2.9%の減少となりました。茶類その他の売上高は、混合茶用のエキスをココアが減少したものの、原料用の紅茶や緑茶及び小売用紅茶が増加したため、前期比3.7%の増加となりました。その結果、飲料製品及び原料の売上高は43億22百万円(前期比7.3%増)となりました。



(単位:百万円)





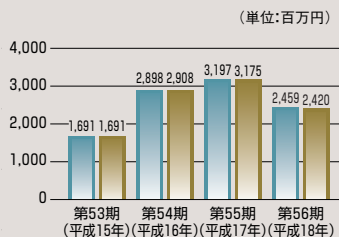
常温食品

輸入食品及び自社ブランド商品の売上高は、フルーツ缶詰が減少しましたものの、農産缶詰及びイタリア食品（パスタ・オリーブオイル）の増加により、前期比4.0%増加しました。一方、国内メーカー商品はユーザー向けPB商品の減少等により、前期比6.8%減少しました。食品の輸出売上高は海外での日本食ブームの影響で東南アジア向けを中心に27.4%増加しました。その結果、常温食品の売上高は86億11百万円（前期比0.2%減）となりました。



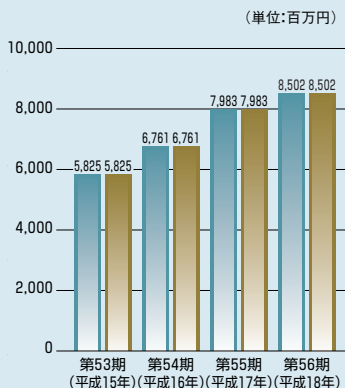
その他

業務用コーヒー関連器具・備品の売上高は、販売先の需要減により引き続き減少いたしました。機械・機器の輸出は大口取引先との当期後半の契約遅れにより大幅に減少いたしました。その結果、その他の売上高は24億20百万円（前期比23.8%減）となりました。



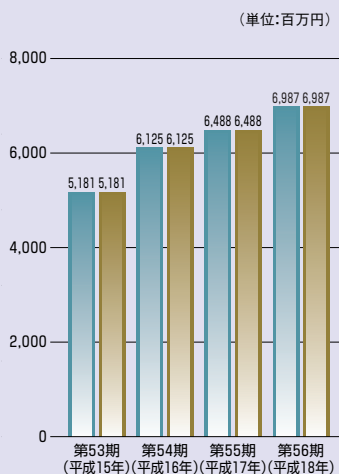
冷凍食品

輸入冷凍水産加工品の売上高はエビやタコの増加により、前期比4.9%増加しました。輸入調理加工品の売上高は商品アイテム数の増加や販路の拡大により、前期比49.5%増加しました。国内メーカー商品はユーザー向けPB商品の増加や新規仕入先の増加により前期比3.0%増加しました。その結果、冷凍食品の売上高は85億2百万円（前期比6.5%増）となりました。



食品原料

食品原料の売上高は、生鮮野菜や小豆加工品が減少しましたが、栗原料・栗甘露煮製品、トマト加工品及び新規輸入商品が増加いたしました。その結果、食品原料の売上高は69億87百万円（前期比7.7%増）となりました。



連結財務諸表 要旨

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当連結会計年度末 (平成18年3月31日現在)	前連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)		当連結会計年度末 (平成18年3月31日現在)	前連結会計年度末 (平成17年3月31日現在)
流動資産	11,316	11,191	流動負債	7,108	6,759
現金及び預金	1,684	1,791	支払手形及び買掛金	2,890	2,729
受取手形及び売掛金	5,648	5,001	短期借入金	972	1,360
たな卸資産	3,664	3,668	一年以内返済予定長期借入金	939	900
その他	333	745	賞与引当金	136	145
貸倒引当金	△14	△15	その他	2,169	1,623
固定資産	6,241	6,084	固定負債	2,506	3,447
有形固定資産	2,665	2,764	長期借入金	1,772	1,897
建物及び構築物	1,051	1,101	その他	733	1,550
土地	1,343	1,395	負債合計	9,615	10,206
その他	271	268	少数株主持分	201	188
無形固定資産	16	14	資本金	623	623
投資その他の資産	3,559	3,305	資本剰余金	357	357
投資有価証券	2,957	2,794	利益剰余金	6,657	5,847
その他	647	567	株式等評価差額金	109	57
貸倒引当金	△45	△57	自己株式	△4	△4
資産合計	17,558	17,275	資本合計	7,742	6,880
			負債、少数株主持分及び資本合計	17,558	17,275

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	前連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	35,457	34,166
売上原価	31,315	29,330
売上総利益	4,142	4,836
販売費及び一般管理費	3,764	3,776
営業利益	378	1,059
営業外収益	415	404
営業外費用	98	107
経常利益	695	1,356
特別利益	940	3
特別損失	58	834
税金等調整前当期純利益	1,576	525
法人税、住民税及び事業税	592	40
法人税等調整額	△3	60
少数株主利益	16	7
当期純利益	970	416

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	前連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
資本剰余金期首残高	357	357
資本剰余金期末残高	357	357
利益剰余金期首残高	5,847	5,646
利益剰余金増加高	970	416
利益剰余金減少高	160	216
利益剰余金期末残高	6,657	5,847

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	前連結会計年度 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	499	△389
投資活動によるキャッシュ・フロー	2	△221
財務活動によるキャッシュ・フロー	△636	713
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	10
現金及び現金同等物の増減額	△117	113
現金及び現金同等物の期首残高	1,716	1,603
現金及び現金同等物の期末残高	1,599	1,716

財務諸表(単体) 要旨

貸借対照表

(単位:百万円)

	当期末 (平成18年3月31日現在)	前期末 (平成17年3月31日現在)		当期末 (平成18年3月31日現在)	前期末 (平成17年3月31日現在)
流動資産	11,065	10,934	流動負債	7,131	6,738
現金及び預金	1,465	1,593	支払手形	81	64
受取手形	820	383	買掛金	2,930	2,732
売掛金	4,829	4,613	短期借入金	972	1,360
商品	3,054	2,893	1年以内返済予定長期借入金	927	882
その他	910	1,466	賞与引当金	122	129
貸倒引当金	△14	△15	その他	2,097	1,569
固定資産	3,628	3,624	固定負債	2,410	3,346
有形固定資産	2,198	2,303	長期借入金	1,740	1,867
建物	785	825	その他	670	1,478
土地	1,334	1,386	負債合計	9,541	10,084
その他	79	92	資本金	623	623
無形固定資産	11	13	資本剰余金	357	357
投資その他の資産	1,418	1,307	利益剰余金	4,109	3,453
投資有価証券	552	542	株式等評価差額金	67	45
子会社株式	283	283	自己株式	△4	△4
その他	626	538	資本合計	5,152	4,474
貸倒引当金	△45	△57	負債・資本合計	14,694	14,558
資産合計	14,694	14,558			

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(単位:百万円)

	当期 (自平成17年4月1日 至平成18年3月31日)	前期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	35,041	33,686
売上原価	31,342	29,263
売上総利益	3,698	4,423
販売費及び一般管理費	3,453	3,459
営業利益	245	964
営業外収益	340	180
営業外費用	101	118
経常利益	485	1,026
特別利益	940	—
特別損失	58	833
税引前当期純利益	1,367	193
法人税、住民税及び事業税	558	14
法人税等調整額	△7	63
当期純利益	816	115
前期繰越利益	161	190
当期末処分利益	977	305

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位:円)

	第56期 (株主総会承認日 平成18年6月29日)
当期末処分利益	977,926,699
固定資産圧縮積立金取崩額	14,287,424
合計	992,214,123
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	199,746,750
〔 1株につき 25円 うち普通配当 20円 記念配当 5円 〕	
別途積立金	500,000,000
次期繰越利益	292,467,373

ホームページのご案内

<http://www.ishimitsu.co.jp/>


当社ホームページでは、
企業情報・IR情報、
採用情報、最新ニュース等、
当社に関する情報を
提供しております。

会社情報

平成18年3月末現在

● 会社の概要

会社設立 昭和26年5月
会社名 石光商事株式会社
資本金 62,320万円
本社 神戸市灘区岩屋南町4番40号
従業員数 167名

● 役員 (平成18年6月29日現在)

代表取締役会長 石光 輝男
代表取締役副会長 駒澤 啓之
代表取締役社長 森本 茂
専務取締役 中西 繁
専務取締役 草場 鉄郎
常務取締役 久保 潤一
取締役 内田 十司夫
取締役 北川 誠
取締役 山口 啓介
取締役 市橋 理幸
常勤監査役 入江 和義
監査役 植松 尚三
監査役 樋口 進二

● 株式の状況

- ①会社が発行する株式の総数 22,400,000株
②発行済株式総数 8,000,000株
③株主数 6,633名
④大株主

株主名	所有株式数	議決権比率
石光 輝男	398,090 株	4.98 %
石光商事従業員持株会	386,260	4.83
三菱商事(株)	378,370	4.73
(株)三井住友銀行	252,640	3.16
駒澤 啓之	210,500	2.63
日米珈琲(株)	204,000	2.55
竹田 和平	200,000	2.50
丸紅(株)	192,270	2.40
三井物産(株)	178,000	2.22
石光 百合	169,000	2.11

● 株式分布状況

所有者別		所有数別
13名 (0.20%)	金融機関	960,960株 (12.01%)
10名 (0.15%)	証券会社	49,400株 (0.62%)
45名 (0.68%)	その他の法人	1,337,570株 (16.72%)
4名 (0.06%)	外国法人等	38,100株 (0.48%)
6,561名 (98.91%)	個人・その他	5,613,970株 (70.17%)
6,633名 (100.00%)	合計	8,000,000株 (100.00%)

●グループ情報

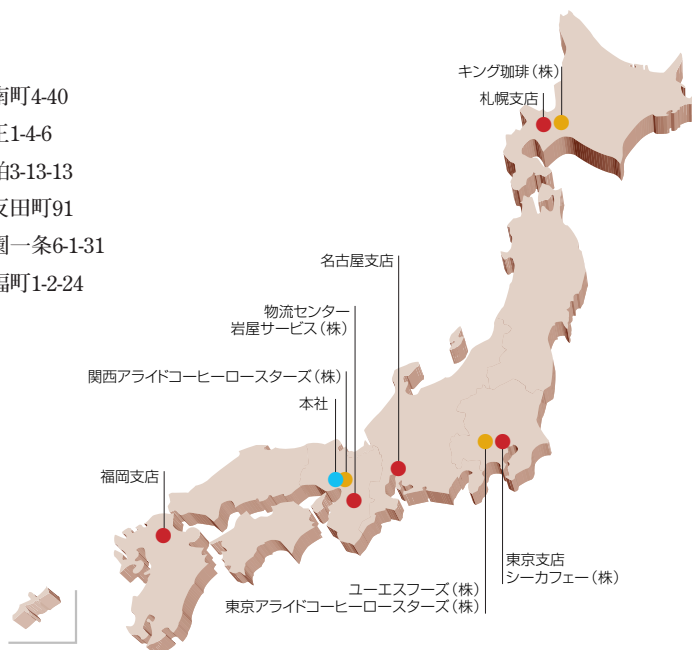
- 当 社 …当社取扱主要品目を海外から輸入または国内で仕入れ、全国のコーヒー焙煎業者、業務用食品問屋、飲料メーカー、食品加工メーカー、量販店、外食チェーンに販売しております。
- シーカフェー(株) …当社取扱品目のアンテナショップとしてイタリアンレストランを経営しております。
- ユーエスフーズ(株) …コーヒー生豆を自家焙煎喫茶店等の小口ユーザーに販売しております。
- キング珈琲(株) …コーヒー生豆を焙煎して製造したレギュラーコーヒーを常温食品及び冷凍食品とともに業務用として喫茶店等に販売しております。
- 岩屋サービス(株) …関西地区における当社の運送業務を行っております。
- 関西アライドコーヒーロースターズ(株) …コーヒー生豆を焙煎し、当社が販売するレギュラーコーヒーの製造・加工受託を行っております。
- 東京アライドコーヒーロースターズ(株) …コーヒー生豆を焙煎して製造したレギュラーコーヒーを飲料メーカー及び量販店等に販売しております。

〈事業所〉

- 本 社 神戸市灘区岩屋南町4-40
- 東 京 支 店 東京都大田区山王1-4-6
- 福 岡 支 店 福岡市博多区堅粕3-13-13
- 名 古 屋 支 店 名古屋市北区五反田町91
- 札 幌 支 店 札幌市豊平区美園一条6-1-31
- 物 流 セ ン タ ー 大阪市西淀川区福町1-2-24



本社



Cafetopia

®

カフェトピア

とびだす香りが
お楽しみ!
(初回開封時)

この香り!
アロマボトル

香りを閉じこめた
圧カパック!

ひきたての豊かな香気(アロマ)を
ボトル缶に閉じこめました。



あけてからも、
香り長もち!

光も空気も通しません。
(キャップはしっかり閉めてください)



こだわりの原料!

香りの厳選コーヒー豆だけを
ついています。

ここが新発想! **アロマボトル**とは・・・

焙煎・粉碎したての、ガスがどンドン出ている状態の
コーヒーをそのまま高压パックでボトル缶に封じこめ
るという画期的な製品です。



▼こんなことが実現しました。

その1

陽圧密封とコーヒー発生ガスの作用による「陽圧環境」で、製造後も長期にわたり多くの揮発性香気が
粉にとどまっています。また、酸素を追い出して不活性ガス置換密封して、遮光・ガスバリア性に
優れた容器と共に、品質保持に大きな効果を上げています。

その2

開栓したときに「プシュー」という音とともに飛び出し部屋に広がるコーヒーの香り、湯を注いだときに
盛り上がる細かな泡と、立ち昇る香気は、まるで専門店の挽き売り品のようです。

その3

そのまま再密封して香り長もち! 必要量の使用後はそのまま再密封でき、密封容器に移し替える必要もなく、お
いしさがとても長持ちするのです。使い終わったとき、また欲しくなるのは、このおいしさがポイントです。

■TEL・FAXにてご注文を受け付けております。

TEL.078-861-7782 FAX.078-806-3824

石光商事株式会社 コーヒー・飲料部門 兵庫県神戸市灘区岩屋南町4-40 E-mail:cafetopia@ishimitsu.co.jp

株主メモ

定時株主総会 毎年6月中
基準日 定時株主総会 3月31日
剰余金の配当受領株主確定日 期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒541-8502
(お問い合わせ先) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
電話0120-094-777(通話料無料)

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村証券株式会社 全国本支店
○株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行
株式会社のお電話およびインターネットでも24時間承っております。
電話(通話料無料)
0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)
ホームページ
<http://www.tr.mufig.jp/daikou/>
公 告 方 法 電子公告

R100
古紙配合率100%再生紙



この事業報告書は、環境に配慮し、
再生紙と大豆油インキを使用して
おります。